

1 消火器の取扱い

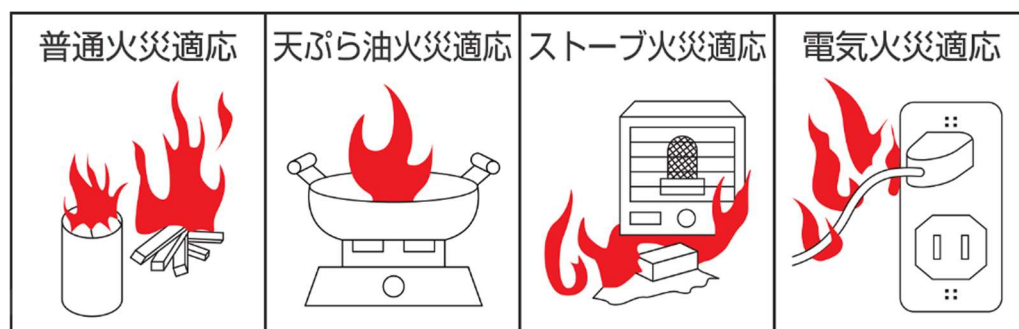
① 消火器の選び方

消火器は、「住宅用」と「業務用」に大別されます。

住宅には軽量で扱いやすい「住宅用消火器」を備えることを推奨しています。
※消火器の設置義務がある飲食店や露店などには「業務用消火器」が必要となります。

《住宅用消火器》

住宅用消火器は、住宅火災に適した消火器として開発された軽量の消火器で、誰でも簡単に操作できます。本体の色は、メーカーによりいろいろなものがあります。適応する火災は「普通火災」「てんぷら油火災」「ストーブ火災」「電気火災」のいずれかになります。本体に表示されている以下の絵を確認して、用途に合った消火器を選んでください。



《業務用消火器》

業務用消火器は、消防法により消火器の設置が義務付けられている場所へ設置する消火器です。住宅用と比べて大型で適応する火災は「普通火災（A）、油火災（B）、電気火災（C）」の絵で表示されています。

住宅用消火器の耐用年数は5年程度、エアゾール式（スプレー式）は3年程度です。業務用消火器の耐用年数は8～10年です。住宅用消火器（エアゾール式以外）、業務用消火器は一般廃棄物として処理できませんので、購入した店舗に問い合わせるか、お近くの特定窓口または引取所にご連絡ください。エアゾール式はスプレー缶として処分してください。

リサイクル窓口検索（消火器リサイクル推進センター）

<https://www.ferpc.jp/accept/>



② 消火器の使用方法



火災を発見！

『火事だ！』と大きな声で周囲の人に知らせる。

周囲の人に火災が発生していることを知らせて、避難を促すとともに初期消火や 119 番通報を行ってもらいましょう。



消火器のレバーの下側を持って運ぶ

火災を発見したら、消火器を持って火元の近くまで移動します。消火器を運ぶ際は、消火剤を噴射してしまわないように、レバーの下側を持ちましょう。

火元に近づくときは、できるだけ姿勢を低くして、炎や煙を避けながら焦らずゆっくりと近づくことも大切です。室内の火災の場合は、非常時にすぐ避難できるよう注意しながら消火します。屋外の火災の場合は、風上から噴射するように注意しましょう。



消火器の安全栓を引き抜く

火元にある程度近づいたら、消火器の上部に付いている黄色い安全栓を引き抜きます。火元からの距離は、炎の高さの 2～3 倍を目安としましょう。住宅用消火器の場合、放射距離は 2 メートル程度であるため、あまり離れると効果がありません。



消火器のホースをはずして火元へ向ける

安全栓を抜いたら、消火器のホースをはずして火元に向けます。炎の上部ではなく、火元に向けるのがポイントです。噴射したときに、勢いでホースの向きが変わらないよう、先端をしっかりと持ちましょう。



消火器のレバーを強く握って噴射する

ここまでの準備ができれば、消火器のレバーを強く握って消火剤を噴射しましょう。住宅用消火器の場合、放射時間は10～15秒程度です。火元を狙って一気に消すイメージで噴射しましょう。

③ 消火の際の注意点

消火器はすぐに使える場所に設置しておく

消火器は、コンロなどの火元から離れた場所に、すぐに使えるよう高所は避けて設置しましょう。火災が発生しやすいキッチンや、廊下、玄関など目につきやすい場所に設置するのがおすすめです。また、湿度が高すぎる場所や直射日光が当たる場所に設置すると、消火器が劣化しやすくなります。屋外に設置する場合は、破裂事故を防ぐために専用の格納箱に入れて保管する必要があります。

初期消火ができない場合は速やかに避難する

炎が天井まで達してしまった場合、消火器での初期消火は困難です。身の安全を第一に考え、天井に燃え移ったらすぐに消火活動を中断して避難しましょう。被害を最小限に抑えるためにも、火災時には早期の発見が重要となります。